



新たな価値をプラスする
機械・素材・技術の展示会

NEWS

2018.9.26(水)・28(金)
東京ビッグサイト 東ホール
www.n-plus.biz

発行元：エヌプラス事務局

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル4F アテックス(株)内
TEL：03-3503-7621
FAX：03-3503-7620
E-mail：office@n-plus.biz



最新の機械・素材・技術・IoT/AIが集結！

「N+は毎回来場します。『とがったモノ』『特徴的なモノ』が出ているのが良いんですよ」。毎年、9月の開催を楽しみにしている、ある技術者の声だ。

「優れた機能を有する素材を開発してみたが、用途が決まっていない」とか、「製造業向けに展開していなかった機械の可能性を試しに出展した」、そんな心躍る提案を並べる出展者と、毎回出会えるというのだ。

コンセプトは「新たな価値をプラスする」

9月に開催されるN+は今年で9回目を迎える。自動車やエレクトロニクス、化学など、幅広い製造業関係者の支持を受けてきた。

「新たな価値」、つまり『高機能化』や『高付加価値化』をPRしたい出展者が集う。冒頭に紹介したのは、そんなN+ファンの、ある意味で一致した意見と言える。

出展者の感じる魅力

実は同様の評価は、出展者からも聞かれる。

「面白いもの、目新しいもの、型破りな提案を心待ちにしている、目の肥えた来場者が多い。鋭い質問、掘り下げた話も多く、満足度が高い」（機械メーカー担当者）、「展示会の理想像だと思う。具体的な「軽量化」とか「接着」みたいな課題をもって来場して、「こんなものもあるのか!」という驚きと満足を得られる。ただ来場者が多いだけでは違う」（化学メーカー担当者）。

関連展示会は数多いがN+にはコアな支持が集まるようだ。

毎年ニーズ取り込み進化

そのN+はこれまで、どのように支持を築いてきたのか。それは、「新たな価値をプラスする」というコン



↑来場者で賑わうN+2017の会場。3日間で約31,000名が来場した。

セプトを基本として、柔軟に市場の課題と流行を取り込み、進化を続けてきたことにある。

「N+はプラスチックの展示会でしょう?と言われるが、それは過去の話」主催関係者は断言する。「プラスチック「も」あるけれど、今は「機械・素材・技術」の展示会」。

今年の進化＝挑戦はIoT/AI

今年のN+のポイントを聞いた。「『生産性向上』と『高効率化』をテーマに加えた。労働力人口の減少や働き方改革には、製造業でも絶対に対応を迫られる」。

そこへ訴求するIoT/AIを出展対象として新設した。「IoTを導入することだけは決まったけれど、具体的



↑会場内での商談も活発だ。

な選定はこれから...という声を各社で聞いた。情報がまだまだ浸透していないと感じた(同)。では、なぜN+でIoTなのか。

ソフトウェアベンダーの意見がヒントになった。「例えば、予知保全のシステムを導入するとして、実際に動かすのは現場とか工場の人なわけです。ITの展示会にはそんな人は来ない。そういう人へのマーケティングの場がほしい」。加えて、同時開催のEVEX・SATEX(裏面参照)は、よりIoT/AIと親和性が高い。相乗効果も期待できる。

もう一つ、出展者同士の商談にも期待する。「3日間、同じ空間で顔をあわせる中で、お互いの商売がどんなものか理解も深まるし、具体的な話しもできる。IoTはまだ検討中という大手の出展者は多く、N+は絶好の機会になるはず(前出主催関係者)。

もう一つの挑戦 受託加工ゾーン

この「出展者同士の商談」のヒントは、もう一つ、受託加工ゾーンの新設につながった。試作や受託加工の企業には、「9㎡の小間は大きく、費用が高い(加工メーカー担当者)」という意見があった。

同時に「機械メーカーの出展者にとっては、受託加工の会社こそ機械



↑実物の展示・実演を交えた商談は、展示会ならではの魅力。

を導入してくれるお客さん。展示会場で、じっくり商談できる(前出主催関係者)。こうした声に応えるのが、4㎡の小間の受託加工ゾーンだ。

前回は上回る出展申込

新たな施策が打ち出された今年のN+。5月末の出展申込締切に向けて、前回は上回るペースで出展者が集まっている。

「N+は同時開催で電気自動車の展示会もあり、自動車関係の来場も多い。電動化に伴う軽量化など、まさに高機能化を必要としている業界だ」「一方で競合する展示会も多いが、東京ビッグサイトで秋の開催は変えない。19年・20年も安心して出展してもらいたい(同)。毎回出展する各社にも朗報だろう。

すでに公式WEBサイトでは事前来場登録も受け付けている。今後は、6月上旬に出展者情報を公開し、8月以降セミナーの聴講登録も開始する。

果たしてどんな『とがった』情報が発信されるのか。今年もN+から目が離せない。

N+ 来場者の関心は…?

名詞	スコア	出現頻度
材料	377.35	112
加工	46.80	40
情報	3.21	37
コーティング	86.71	34
システム	17.56	34
樹脂	113.42	32
活用	20.91	31
位置情報	21.00	30
自動車	60.76	28
充電	9.52	26
可能	2.51	22
動向	41.95	22
自動運転	67.30	22
機能	5.69	22
機器	23.40	20
軽量	23.40	20
電池	11.70	20
サービス	3.78	20
屋内	59.79	18
開発	4.88	18
衛星	39.63	18
利用	2.40	18
電動	25.36	16
接着	11.20	16
表面処理	11.20	16
CFRP	11.20	16
今後	4.81	16
用途	22.19	14
分野	8.70	14
位置	6.80	14

図はN+の事前来場登録者に、自由記入で聞いた「見たいもの」をテキストマイニングにかけた結果だ。一般名詞や同時開催展に期待する「EV」「測位」などが多い中、「コーティング」「樹脂」「軽量」や、「接着」「表面処理」「CFRP」などに具体性が読み取れる。ここに無いものでは「CNF」「接着剤」「金属」「複合材料」などが多い。

業種別で見た場合、自動車関係は「軽量」「樹脂」、電機では「接着」「コーティング」「接合」、化学では「接着」「成形」「耐熱」「強度」などが特徴的だ。

来場登録者の具体的なニーズは公式WEBサイト「出展のご案内」で公開中。

※UserLocalテキストマイニングで分析

【出展企業抜粋】 申し込み済みの企業から、出展予定製品が決まっているものを掲載・5月10日現在

●機械・装置/IoT/AI		●素材・材料		●加工技術/受託加工	
アフィット	500℃まで即加熱できる新型ホットエンド	アイオン	高機能スポンジ・多孔質体を各種展示	イトウ六	スリット加工・シートカット断裁のイトウ六
エルメック	多種少量生産対応・特許強制空冷断熱カバー	アキレス	ゴムと繊維がおりなす多彩な性能	エムケーセラ	セラミック部品を1個から短納期で加工
キャノン電子	生産効率1/nを実現する小型生産機器	池田金属工業	ねじ締結でのお困り事・問題解決ブースです	大塚産業マテリアル	意匠性に優れた複雑形状にも対応の不織布成形
新日本空調	浮遊微粒子の混入による歩留り悪化を解決!	石原ケミカル	グラフェンと銅ナノインクで課題を解決!	大府市役所	素材・加工・機械で特長ある企業ばかりです
ソフト99コーポレーション	密着不良を解決!ソフト99フレイムボンド	ウシオ電機	光による接着・硬化・改質をご紹介します。	岡野製作所	金型製作から加工、ASSY、表面処理まで
羽生田鉄工所	最短30分でオートクレーブ成形!!	ダイヤテックス	軽量で割れにくい自己強化プラスチックです	倉敷ボーリング機工	超鏡面セラミック溶射ロール
マーキュリーサプライシステム	スタティックミキサー、rCoater	中越パルプ工業 開発本部	nanoforest	たくみ精密鋳金製作所	薄物(〜3mm)小物の加工が得意です。
ミマキエンジニアリング	デジタルオンデマンド生産のご提案	日本ゼオン	ゼオンの独創的技術から生まれる素材	日本パーカライジング	表面処理による問題解決を提案します
ロゼッタ	最大精度95%で技術文書を自動翻訳	ヤマックス	あらゆる素材に印刷を挑戦します	福井ファイバーテック	FRP引抜成形で新たな価値を創造します

EVの最新情報がここに 規模拡大して開催！



↑前回・EVEX2017の様子。昨年は海外からの来場者も増加した。

話題さらうEVのニュース

「自動車関係の企業は、やっぱり気にしているんですよ」EVEX(イーベックス)について、大手半導体メーカーの担当者は言う。「ずっと開催しているから、関心はあります。セミナーも面白いですし。なかなか世の中がついてこなかったですね」

開催が9回目となり、知名度も高まりつつあるEVEX。ただ一方で、今ひとつ盛り上がりやEVマーケットの影響からか、伸び悩みを見せていた。

影響大きい トヨタ自動車の参入

それが昨年秋、まさに前回EVEX

の開催と相前後して、EVがクローズアップされた。台風の目となったのは、トヨタ自動車EVに本格参入を決定したニュースだ。その後、電機メーカーの合従連衡やスタートアップ企業の参入も立て続けに発表され、かつてない盛り上がりを見せている。

背景には欧州はもちろん、巨大市場・中国の施策の影響も。「国策ですからインパクトは大きい。今のうちに手を打たないと国内勢も手遅れになってしまう」(実行委員)。2019年に中国国内の年間販売台数の10%を新エネルギー車とする規制を発表し、その衝撃は完成車メーカーにとどまらず、部品サプライヤーなどにも広く波及している。

強力布陣固める実行委員会

こうした状況をうけて、EVEX実行委員会には今回、満を持してトヨタ自動車が名を連ねた。同時に、電動化の第一人者である東大大学院・堀洋一教授を副委員長に迎えた。「研究室でEVをつくっている先生もいる。会場で展示したいくらい」(堀教授)。

翌週開催のEVSと連携

かく言う堀教授は、やはり今秋に神戸で開催される第31回国際電気自動車シンポジウム・展示会(EVS31)の実行委員・組織委員でもある。こうした経緯から今回のEVEXは、同展と「特別協力」し、9月から10

Electric Vehicle & Plug-in Hybrid Vehicle Exhibition

EVEX NEWS

EV・PHV普及活用技術展

www.evex.jp

2018.9.26(水)・28(金)

東京ビッグサイト 東ホール

月にかけての一週間を、東京・神戸と、EVのイベントで埋め尽くす。「12年に一回の機会ですから、展示も情報発信も連携したいですね」。EVS31主催の日本自動車研究所の担当者は意気込みを語る。

両展出展者には特典も

すでに両展出展者・検討企業には、それぞれに事務局から開催告知を実施した。また出展募集を先行しているEVS申込者には、両展出展の際の特典を設定した。「両方に大きく出展するのが難しいケースがある。ただこの機会は逃すにはあまりにも惜しい」(実行委員)という要望に応え、EVEX初出展者限定のトライアルブースを、EVS出展者には

特別提供する。通常小間料金432,000円(税込/9㎡)のところ、291,200円(税込/6㎡)で出展が可能だ。

すでに規模は前回超え

ここで気になる、出展を決めた各社の声を紹介しよう。「EV向けの新開発の製品を出展する。出さなければいけない」と思っていた(大手素材メーカー)。「軽量化したEV向けの搭載品を披露する」(部品メーカー)。「市場の盛り上がりを受けて急遽、予算を計上した。新規参入を狙う部品メーカーを集めて提案する」(自治体)。早くも前回は大きく上回る開催規模が確定したEVEX。今後も増える出展者の情報に期待が集まる。

EVEX2018 実行委員会			
委員長	大聖 泰弘 (早稲田大学大学院 特任研究教授)	副委員長	堀 洋一 (東京大学大学院 教授)
	田中 昌一 (コンチネンタル・オートモーティブ・ジャパン)		平田 健二 (日本充電サービス)
	黒岩 隆之 (JTB コミュニケーションデザイン)		高後 哲也 (日本電産トソク)
	荻野 法一 (次世代自動車振興センター)		鈴木 康史 (日本ユニシス)
	向井 徹 (スズキ)		江原 隆 (ビー・エム・ダブリュー)
	吉田 誠 (CHAdemo 協議会/日産自動車)		五十嵐 仁 (フォルクスワーゲン グループ ジャパン)
	川端 康晋 (電動車両電力供給システム協議会)		遊作 昇 (本田技術研究所)
	江草 俊 (東芝インフラシステムズ)		原川 開 (矢崎総業)
	榎根 喜久 (トヨタ自動車)		(順不同、敬称略)

Satellite Positioning Technology Exhibition

SATEX NEWS

衛星測位・位置情報展

www.satex.jp

2018.9.26(水)・28(金)

東京ビッグサイト 東ホール

いよいよ稼働する「みちびき」 マーケットの将来を担う展示会

かつてない前回評価 今年も高まる期待

「やはり『位置情報』というワードが良かったのでしょうね」先般の実行委員会でも出された意見には、誰もが頷いた。SATEX(サテックス)の名称を衛星測位技術展から変更した前回から、屋内測位・位置情報サービスなども出展対象に加わった。

出展者の会期後のコメントには、「今後の発展性が大きいというイメージで情報収集に来る人が多い」など、市場の成長性に期待する前向きな声が多く寄せられた。

4回目開催で着実に浸透

初回の2015年から数えて4回目

を迎え、今回のSATEXにも製造、情報通信・サービス、建設、流通・運輸、インフラ関係など、幅広い業種からの来場が見込まれる。

来場者のニーズはどのようなものか。「鉄道、農業、自動車関係など幅広い業種がcm級・サブメータ級の技術に具体的な関心を持っている」(前回出展者)、「自治体関係者に準天頂衛星システム『みちびき』の災危通報システムについて詳しく聞かれた」(実行委員)など、「みちびき」に関する声が多い。高精度な位置情報の広範な活用が期待される中、引き続き受信機やアンテナ、システムに関わるビジネスレベルの提案は関心呼びそうだ。

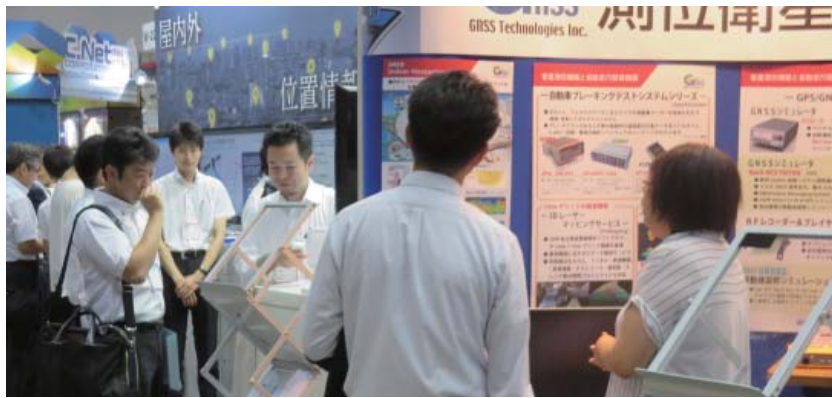
また新たに設置した「自動運転」「IoT/AI」など、近年急速に普及が

進む分野の展示および関連する併催行事は大きな目玉だ。

屋内測位の充実に期待

工場や商業施設・駅などで活用される「屋内測位」もサービス提供者が増えてきており、来場者の要望も根強い。「屋内測位技術と製品を見たい」(製造、情報通信ほか)、「工場内での位置測位に関心がある」(化学メーカー)といった声が聞かれる。

工場の生産ラインでは、従業員の位置情報を解析することで、効率的なレイアウトや人員配置に活用できる。生産性向上や働き方改革が課題となっている中で、今後の普及が見込まれる分野だ。



↑SATEX2017。会場内では各所で活発な商談が行われた。

協力関係も強化

協力・後援体制も強化する。SATEX開催翌月の10月に豪州で開催されるMulti-GNSS Asia (MGA)の事務局・測位航法学会との相互協力を実施し、「みちびき」の位置情報を受信可能な地域での活用促進

を連携して発信する。あわせて今回、はじめて内閣府と経済産業省および国土地理院へ後援名義を申請する。国の施策を支援材料にバックアップを得て、気鋭の各社の出展およびビジネスユーザーの来場促進に繋げる方針だ。

SATEX2018 実行委員会			
委員長	柴崎 亮介 (東京大学 教授)	副委員長	久保 信明 (東京海洋大学学術研究院 准教授)
	三神 泉 (衛星測位利用推進センター)		菅原 敏 (日立製作所)
	磯 尚樹 (NTT データ)		岸本 信弘 (マゼランシステムズジャパン)
	永瀬 淳 (ソフトバンク)		那須 俊宗 (マルティスグループ)
	山田 勲 (日本電気)		曾根 久雄 (三菱電機)
	五関 利幸 (パスコ)		楠野 順也 (ヤンマー) (順不同、敬称略)

N+ / EVEX / SATEX の次回開催は 2019年9月11日(水)~13日(金)

発行元：EVEX/ SATEX 事務局
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル4F アテックス(株)内
F A X : 03-3503-7620

■ EVEX
T E L : 03-3503-7660
E-mail : office@evex.jp

■ SATEX
T E L : 03-3503-7661
E-mail : office@satex.jp